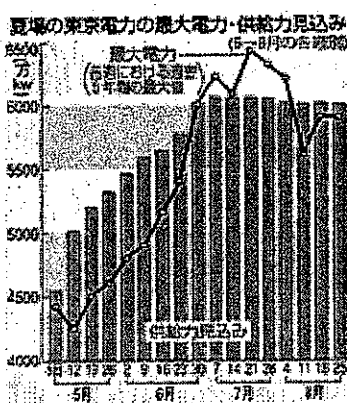


脱原発でも夏場の電気は大丈夫

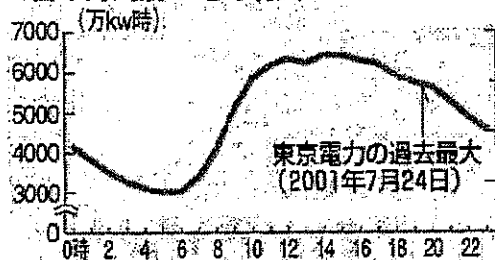
関西ではそれほど切実感はないのですが、この夏電力不足が話題になっています。損傷隠しが原因で、点検を余儀なくされた東電が原発を停止しているからです。東電の全原発17基が4月15日にはすべて止まり、その後5月7日に柏崎刈羽6号機が運転再開を強行したものの、このままでは首都圏に停電が襲うとキャンペーンが張られています。(図は朝日新聞記事から)



一瞬のピークだけが問題

問題にされている最大電力は、変動する一日の電力需要の一瞬のピークの値です。

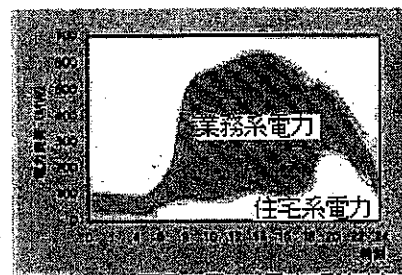
1日の時間別の電力消費



電気は貯めておくことができないため、この需要にちょうど合うように発電量を調整しています。ピーク需要に足りるようにするためにいつもは動かない発電所を待機させているのです。電力会社にとっては、遊んでいる設備が少ないほうが儲けになるので、ピーク需要が伸びるよりも、ピークとボトムの負荷が平準化することのほうが望

ましいのです。それでは、夏場にピークを作り出しているのは、ビールを片手にエアコンをかけて高校野球を見ているからでしょうか。もちろん答えはノーです。

住宅系の電力ピークは夜の8時頃で、昼間のピークは業務系の電力です。



力です。といことはピーク需要カットの協力要請もやりやすいはず。特に大口の顧客には電力会社は需給調整に協力することを条件に電気料金を安くする契約を結んでいます。そのとおり実行してピークを抑える努力をすれば、原発なしでも夏場を乗り切ることは不可能ではありません。

地球環境のためにも省エネを

ピーク需要のことだけを考えれば、夏場のピークに力を発揮する太陽光発電の普及に力を入れることも一つの方法でしょう。大規模な原発に頼りすぎたために、電力危機が生じている現実を踏まえ、分散型の自然エネルギーにシフトしていく政策が今ほど求められているときはありません。

また、省エネルギーなど、ヒートアイランド現象・地球温暖化対策に力をいれ、クーラーをがんがかけなくても涼しい環境を作り出すことが必要なのではないでしょうか。

電力不足をあまり、安全性に問題のある原発の運転再開を急ぐことは許されません。